



福島県における スマート農業等技術の開発・普及について

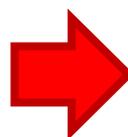
福島県
農林水産部農業振興課
副主査 藤家良輔

始めに...

これまでの福島県のスマート農業等推進の取組

福島県の農業は...

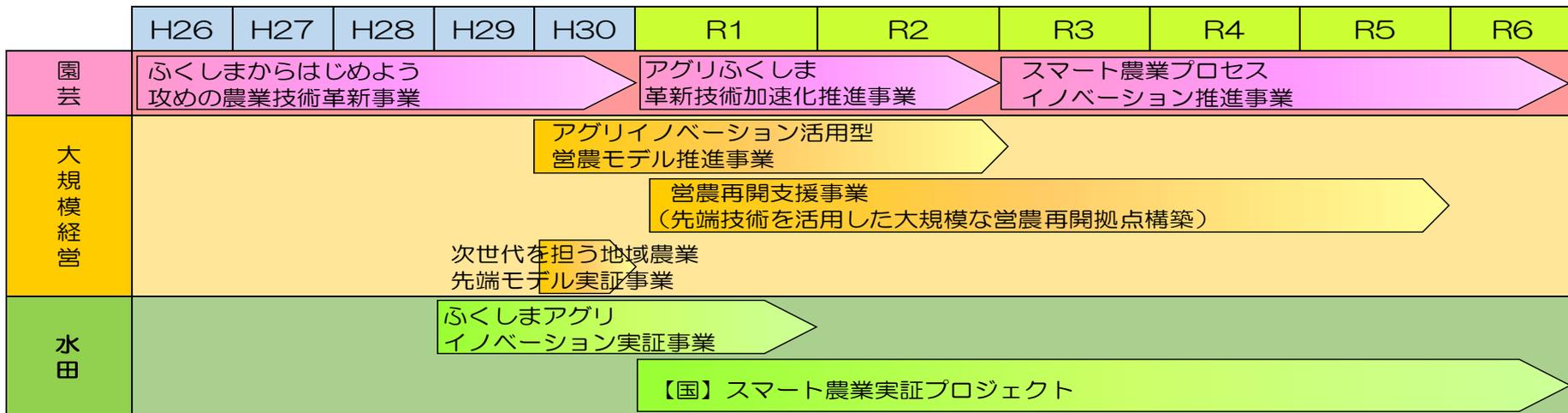
- ①農地集積による担い手負担の増加
- ②極端な気象による不安定な生産
- ③原子力災害による影響



これまでにない厳しい環境に打ち勝つ取組が必要

⇒平成26年度から

意欲があり将来を展望できる経営体の育成を目指し、
先端技術の現地実証・研究開発に取り組む



福島県のスマート農業推進 取組方針

○福島県スマート農業等推進方針（令和3年3月策定）

スマート農業等の研究開発・技術実証を中心とした取組に加え、指導人材育成や相談窓口の設置、研修機会の充実などの農業者へのスマート農業等導入・拡大のための取組を強化する。

- 1 情報の収集と提供【各機関】
- 2 技術の実証・普及【各農林事務所等】
- 3 人材の育成【農業短期大学校等】
- 4 新技術等の研究開発【農業総合センター】
- 5 農業基盤・情報通信環境の整備【農村基盤整備課等】

福島県のスマート農業推進の取組状況

1 主な新技術開発状況

ブロッコリー選別収穫ロボットの開発

(ブロッコリー選別収穫ロボットの開発・実証を通じた少人数・大規模栽培モデルの構築)

- ・ 震災以降に産地規模が縮小した福島県沿岸部のブロッコリー産地の再生を目指す。

[課題]

- ①震災以降、農業従事者数が減少
 - ②収穫作業に多くの労力を要するため規模拡大が進まない。
 - ③機械による一斉収穫は、生育が不揃いでは不向き。
- 収穫作業の省力化・収益性の向上のために、
選別収穫が可能な収穫ロボットを開発する。



福島県のスマート農業推進の取組状況

2 普及現場における取組

現地実証ほを設置し、技術の可視化と速やかな普及を図る。

令和6年設置数：23か所

(内訳：作物4か所、野菜5か所、果樹11か所、
花き2か所、畜産1か所)

主な実証成果（令和5年度）

○肉用牛のAI超音波肉質診断システムを活用した飼養管理技術の向上及び効率化

肉用牛のAI超音波肉質診断システムを活用した飼養管理技術の向上及び効率化では、AI診断により選出した肉牛が最優秀賞を受賞したことで、販売単価が大幅に上昇

○果樹園におけるロボット草刈り機を活用した果樹園地の省力的防除管理実証

果樹園におけるロボット草刈り機の導入により、防除に係る作業負担軽減するとともに総合的防除を実施



福島県のスマート農業推進の取組状況

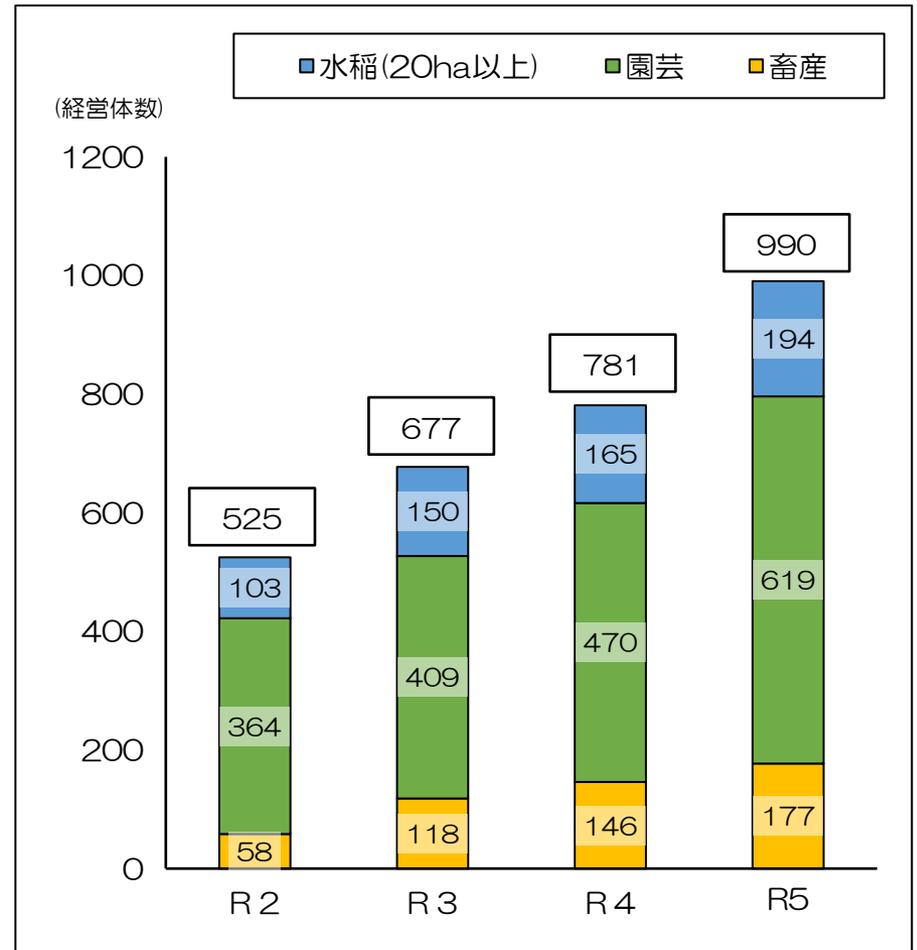
3 スマート農業技術等の導入経営体数（普及の実態）

令和2年度末：525経営体



令和5年度末：990経営体

令和5年度目標の950
経営体に対して
達成率104%！



スマート農業技術 普及に向けた課題

○経営の大規模化に向けた体制・環境整備

- ・スマート農機の導入や、通信環境の整備費用は、生産者個人では負担が大きい。

○スマート農業等技術の活用に向けた人材育成

- ・技術の活用にあたり、専門の知識・技術が必要。

スマート農業技術等の導入を推進し、

- ・省力化・効率化による経営規模拡大
- ・生産性・収益の向上
- ・高品質な農畜産物生産

の実現を目指す

御清聴

ありがとうございました